

シルバー かわ

わ さ き

http://www.kawasaki-sc.or.jp/

平成 25 年 4 月 15 日

第 50 号

公益財団法人
川崎市シルバー人材センター
川崎市川崎区日進町 5-1
川崎市福祉センター 3 階
TEL 044-222-6886
FAX 044-221-8516

平成二十四年度 定時理事会及び 臨時評議員会の開催

三月十二日(火)に開催された平成二十四年度定時理事会の提案議案、①「平成二十四年度補正予算」、②「平成二十五年度川崎信用金庫短期借入金契約」、③「平成二十五年度事業計画及び収支予算」、④「平成二十四年度臨時評議員会の日時及び場所並びに目的である事項等の決定」が審議され、全会一致で承認されました。
また、三月二十六日(火)に開催された臨時評議員会では、「定款の変更」の議案が審議され全会一致で承認されました。



臨時評議員会

平成二十五年度事業計画

平成二十五年度は、当センターが「公益財団法人」へ移行して二年目を迎え、更なる発展を目指すと共に、地域との信頼を深化させ、地域社会へ貢献するために、センターの基本理念である「自主・自立・共働・共助」のもと、関係団体との連携を強化しながら高齢者の臨時的か

つ短期的な就業又はその他軽易な業務に係る就業、及び社会参加活動等を通じて、今まで以上に積極的かつ行動的に取り組み、本事業計画を基本方針により着実に推進してまいります。

基本方針

- 1 会員の増強と育成
- 2 就業機会の確保と拡大
- 3 普及啓発活動の推進
- 4 各種講習会の実施
- 5 安全・適正就業の推進と強化
- 6 調査研究活動の強化
- 7 相談・情報提供の推進
- 8 社会参加活動の推進
- 9 職業紹介事業の実施
- 10 一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）の推進
- 11 シニアワークプログラム地域事業の実施
- 12 指定管理者への取り組み
- 13 第2次中期計画事業の推進

平成二十五年度収支予算

平成二十五年度収支予算の方針について、事業収益は、前々年度及び前年度の契約実績の推移等を検証し、経済社会状況等を加味し編成しました。
特に費用は、過去三年間の執行状況を精査すると共に費用対効果を重視し、削減できる経費は極力削減を図り、法人運営の根幹である自主財源の比率をアップするよう努めることとしました。

平成 25 年度 収支予算

収入の部		(単位：千円)		
科 目	予 算 額	前年度予算額	増	減
受託事業収益	1,168,912	1,097,000	71,912	
受取会員登録手数料	1,000	1,000		
基本財産運用益	47	47		0
特定資産運用益	71	71		
受取補助金	79,314	79,125	189	
受取寄付金	1	1		0
雑収益	5	5		0
経常収益計	1,249,350	1,177,249	72,101	
特定資産取崩収入（経常外）	0	0		0
投資活動収入計	0	0		0
借入金収入（経常外）	65,000	65,000		0
財務活動収入	65,000	65,000		0
収入の部合計	1,314,350	1,242,249	72,101	

支出の部		(単位：千円)		
科 目	予 算 額	前年度予算	増	減
事業費	1,209,414	1,137,554	71,860	
管理費	39,936	39,695	241	
経常費用計	1,249,350	1,177,249	72,101	
特定資産取得支出（経常外）	0	0		0
投資活動支出計	0	0		0
借入金返済支出（経常外）	65,000	65,000		0
財務活動支出計	65,000	65,000		0
支出の部計	1,314,350	1,242,249	72,101	
当期収支差額	0	0		0
前期繰越収支差額	0	0		0
次期収支差額	0	0		0

また、事業計画に示した基本方針により、事業の計画かつ適正な執行を図ることに力を注ぎます。
収支予算については、次のとおりです。

安全就業だより

◎平成24年度第2回 安全・適正就業委員会報告

平成24年度第2回安全・適正就業委員会が2月28日(木)に開催されました。
議題として、①「安全・適正就業対策の実施」
②「平成25年度安全・適正就業実施計画」③「事故発生状況(平成24年4月から平成25年1月まで)」が審議され、承認されました。

平成25年度の重点項目

- 1 安全・適正就業の推進
 - ① 安全・適正就業委員会の活用
 - ② 事務所安全・適正就業対策会議の活用
 - ③ 安全・適正就業委員、対策委員及び会員の育成
 - ④ 安全・適正就業基準の徹底
- 2 安全意識向上の推進
 - ① 講習会・研修会の実施
 - ② 安全就業の啓発
 - ③ 健康管理の充実

広 告



プロフェッショナルDTP
株式会社アサヒプリンティング
[営業部] 〒212-0023
川崎市幸区戸手本町1-7-1
TEL(044)742-8812

表現することの大切さを
私たちは考えています。

平成24年12月～平成25年2月分 事故発生状況

1 傷害事故

番号	区分	仕事の内容	性別	事務所	事故状況
1	就業中	清掃作業	男	南部	清掃作業中にモップを取ろうとし、シャッターをくぐる際頭部を負傷した。
2	就業中	清掃作業	女	北部	自宅から就業場所へ向かう途中、雪で凍結した道で足を滑らせ転倒し、負傷した。
3	就業中	清掃作業	女	中部	就業場所からの帰宅途中、バスから降りる際、転倒し負傷した。
4	就業中	商品管理	男	北部	米袋を乗せた台車を使用中、米袋が崩れたことにより台車が転倒。その際、底の金属部分に左脚のすねをぶつけ負傷した。

2 賠償事故

番号	区分	仕事の内容	性別	事務所	事故状況
1	途上中	家事援助	女	南部	発注者宅にて作業が終了し、帰宅途中に発注者の鍵を紛失したことに気づき、引き返し捜すも見つからなかった。

◎平成24年度県シ連主催の『安全就業標語・ヒヤリハット体験事例』募集で入賞

(公社) 神奈川県シルバー人材センター連合会主催で実施された「安全就業標語」及び「ヒヤリハット体験事例」の募集に対して、当センターの会員から、標語26作品、体験事例9作品の応募があり、3月の事故防止委員会で、「安全就業標語」では、秋元智安さんが佳作に、「安全就業標語」では、「ヒヤリハット体験事例」では、山口純生さんが佳作に選ばれました。

『安全就業標語』 佳作

気を抜く慣れたところに落とし穴

中部事務所 秋元 智安 会員

『ヒヤリハット体験事例』 佳作

(事例)

高圧ホースを13階まで引き上げる途中、接合部が外れて地上に落下した。人に当たれば重大事故となったであろう内容。

(対策)

人員を各階に配置し、ホースを階段の鉄骨に固く結びつけ、落下防止策とした。

南部事務所 山口 純生 会員

◎平成25年度川崎市シルバー人材センター主催の『安全標語』『ヒヤリ・ハット体験事例』を募集します

シルバー事業の事故の未然防止と安全就業の推進につながる「安全標語」と「ヒヤリ・ハットの体験事例」を募集します。

【応募方法】

原稿用紙に住所・氏名・電話番号を記入の上、郵送、FAXまたは各事務所に御持参ください。
※①応募は一人一標語・一事例までとします。

②自作のもの

【締切り】平成25年5月31日(金)

【郵送・FAXの宛先】

〒210-0024 川崎区日進町5番地1

川崎市シルバー人材センター 事業企画課

FAX 044-221-8516

選考の結果、採用された方には表彰状及び記念品を贈呈します。

平成二十四年度 会員表彰式

1月24日(木)、「エポックなかはら」で平成24年度会員表彰式が開催され、当センターで長年にわたり会員の模範となる活動をされた方々へ、理事長から表彰状及び記念品の贈呈が行われました。

また、懇親会では、入会当時の思い出話や、就業中の苦労話、また、この10年間でシルバーの環境が大きく変化したこと、会員間の絆を深めることの必要性など貴重なご意見をお聞きすることができました。

受賞者の皆さん、おめでとございます。



平成24年度 会員表彰式 (場所：エポックなかはら)

調理講習会

開催日 平成25年2月21日(木)
 開催場所 てくのかわさき
 受講者数 21人

センターの利用が多くなってきた家事援助サービズなどへの会員のスキルアップ等を図るために、高齢者の食事への配慮の仕方・衛生面の注意点を調理の工夫などを学習するために、「元氣な高津をつくる会」を講師として、調理に関する実技と知識及び健康に関する体操も併せた調理講習会を実施しました。

今回は受講者のうち、11名が男性でしたが、食材の説明を受けた後、手際よく調理をし、楽しく一緒に昼食をすることができました。



調理実習



健康体操

地域班だより

第2回地域班全体連絡会議の開催

3月28日(木)、川崎市福祉センター研修室において、平成24年度第2回地域班全体連絡会議が

開催され、平成25年度の地域班に係る活動計画(案)について協議を行いました。

また、地域班活動の主要な活動として実施している普及啓発活動の平成24年度中のチラシ配布活動等に関する報告と、センターの現況として、契約実績及び会員登録状況などを事務局から説明しました。



平成24年度 第二回地域班全体会議

広 告

身体が喜ぶ毎日の食事
 筋肉を元気に保つ適度な運動
あなたを健康に！
あなたの健康のために！
 サポートします
健康づくりセンター



一般財団法人川崎市保健衛生事業団
 川崎市川崎区渡田新町3-2-1
 TEL044-333-3741 FAX044-333-3769
<http://www.kenkou-kenshin.or.jp>

会員編集委員による取材

女子力を生かして業務に
取り組む会員を訪問して

川崎はみなさんもご存じのように東西に細長い地形をしています、今回は市内の中間地域で活躍している会員の皆さんの職場を訪問してきました。場所は東横線沿いの中原区木月にある「木月保育園」です。

◇訪問した施設◇

会員の働いている場所は東横線の元住吉駅から南の方向に徒歩で約12分程の所にあります。

「木月保育園」には0歳から就学前の子供たちが入園しています、定員は120名（ホームページより）とのことで大きな保育園です。

◇会員の業務内容◇

会員の担当している業務内容は大きく二種類に分かれています。業務時間は午後3時から7時までの育児補助と午後3時から5時までの給食室での清掃と食器洗い（自動で洗浄したあとの後片付け）です。育児補助は0歳から2歳までの園児



を対象に、①お昼寝から起きた後の着換えの手伝い、②オシメの取換え、③おやつ準備・後片付け、④おやつ後の清掃、消毒の作業、⑤保護者のお迎え（引取り）までの園児のお相手、⑥捕食の手伝い、⑦タオルの洗濯などの色々な業務を担当しています。清掃作業はおやつなどで使用した食器の洗浄と室内清掃ですが、衛生管理が徹底されていて、作業後の消毒業務を行っています。（作業は乳幼児がいる環境なので、細やかな注意と正確さ、家族的な接し方が必要とされるこの事です）

◇会員の数◇

この職場に登録されている会員は10名です。業務は通常は月曜から金曜までの5日間で、育児補助には1日2～3名の方が交代で働いています。清掃業務は1日に1名の方が交代で働いています。日曜、土曜、祝日はお休みとのことでした。

10名の方はスケジュール表が作成されていて、就業する曜日が決められています。都合の悪いときは会員間・事務所他で連絡を取って、交代などを行っているとの事です。

このグループは特にリーダーは設けていませんが会員同士はコミュニケーションをうまく（密接かつ緩やかに）取りながら余裕を持って業務を進めていました。



◇経験を生かしています◇

3名の方（深津さん、佐野さん、原さん）にインタビューに伺い、色々なお話を聞きました。育児補助をしている深津さん・佐野さんは、「育児方針」は保育士の先生が計画し、進めています。が、育児の補助業務は、先生方があらかじめ決められた業務の内容に沿って、長年培った経験、知識を活かして、細やかな気遣いで子供たちに接していますとの事です。清掃業務の原さんは食器の洗浄は機械で行うのですが、その後の清掃、消毒の作業は神経を使って念入りに行っていますとの事です。皆さんは汚れる事は当たり前だから、汚れている所を綺麗にしてあげれば「みんな」が楽しくなる、綺麗にしてあげようと一生懸命に作業をしていると感じました。

園長先生にお話しを伺いました。「シルバーの会員さんは良くやって来ています、今後もこれまで通りに経験を活かして業務を行ってください。」とお言葉をいただきました。

最後に、皆さんの業務はキツイところもありますが、子供の成長など、楽しみもあり、余裕を持って若々しく頑張っている姿を、頼もしく思いました。



事務所だより

★南部事務所

☎2022-1550

★家事援助・子育て支援サービス 全体会議

平成25年3月19日(火)
川崎市福祉センター三階 研修室
参加者33名



南部事務所では、増加する家事援助・子育て支援サービスに積極的に対応するため、各区から会員コーディネーターを一名選出しました。

役割としては、新規受注を中心に発注者と会員のコーディネーターを行うと同時に、事務所と会員の連絡役となり、より円滑な事業運営に会員が参加してもらおうこととなりました。

今回の全体会議で事務局から、会員コーディネーターを紹介し、制度導入の経過及び趣旨等について説明を行いました。会議の後半は、会員コーディネーターが中心となって、地区単位で就業に関する意見をまとめ、発表しました。

なお、会員コーディネーターに就任した三名から抱負を述べてもらいました。

(川崎区 児玉 邦子 会員)

就業年数が長い方々の意見等を参考にしながら、利用者と会員の皆さん双方にとって、有益となるよう取り組んでまいります。特に、これからの社会を担っていく、若い世代の生活支援に力を注ぎたいと思っております。

(幸区 塩入 洋子 会員)

核家族、無縁社会と言われている今、共働きの若い人や一人暮らしの高齢者は、向こう三軒両隣のなサービスを求めている気がします。家事援助で働く側は技術が優れていること以上に、相手への思いやりを持つことこそが、双方の満足度を高め、より良い信頼関係に繋がっていくのではないのでしょうか。

(中原区 佐野 愛子 会員)

このたび、会員コーディネーターという大役を仰せつかり光栄に存じています。「シルバー」という看板の責任の重さを感じながら、今までの経験を生かし、きめ細かいサービスを提供するために、職員の方々や会員の皆さまとともに、質の向上と問題の改善に努めてまいります。よろしくお願い致します。

★中部事務所

☎2022-5031

◎地域班活動報告

中部事務所管轄地域4班の班長、副班長により、1～3月にセンター普及啓発活動として、チラシを14,400部配布しました。

チラシを見て、会員登録の手続や仕事の発注問合せがあり配布効果がありました。

◎松の手入れ講習会

平成25年2月25日(月) 参加者24人

植木班班員の技術向上と共働・共助の推進、安全就業強化のため、緑ヶ丘霊園内の噴水広場前の松を教材に松の手入れ講習会を開催しました。

当日は、北風が寒い日でしたが、会員講師からの熱い指導に受講生も寒さを忘れて、作業に励みました。

また、北部事務所植木班からも多くの参加者があり、中部・北部事務所植木班の交流の場ともなり大変有意義な講習会になりました。



◎安全・適正就業会議及び巡回

事務所対策員により、安全就業確認のため、マシオンを中心に就業現場を巡回しました。

就業現場においては、脚立に乗っての作業等で、危険な作業も見受けられたことから、安全作業を指導しました。

〈安全適正就業対策会議からお知らせ〉

- ・年に一度は、特定健康診査及び後期高齢者健康診査を受診し、健康チェックをしましょう。
- ・持病があり通院している場合には、病名と通院

している医療機関を記載したメモを財布など身につけているものの中に入れておき、いざという時に、医療機関等に判るようにしておきましよう。

◎家事援助・子育て支援サービス講習会・懇談会

平成25年3月19日(火) 参加者15人

最初に講習会として、事務所から①就業の心得・シルバー保険・個人情報について②家事援助・子育て支援に関する書類等についての説明を行い、業務について確認していただきました。また、併せて現在の就業内容に変更がないか等のアンケート調査を実施しました。



その後、懇談会に移り

仕事についての意見交換や情報交換を行いました。短い時間の中でしたが、会員の皆さんから色々な報告や意見等を聞く事ができ有意義な会となりました。

★北部事務所

0980-0131

◎事務所安全・適正就業対策会議

平成25年2月14日(木) 出席者6名

今年度も植木・除草作業現場を中心に、委員・対策員により現場の巡回指導を行ってきましたが、2月は多くの会員が就業しているマンション清掃作業の現場の巡回指導を行うこととしました。清

掃用具が劣化していないか、清掃には水を使うことがあるので足元が滑りやすくなっていないか、階段等の段差がある場所では安全作業を心がけているかなどを主な確認事項とし、次のとおり巡回指導を行いました。

平成25年2月14日(木)

多摩区寺尾台のマンション(3階建地下1階)

男性会員1名で就業

(週5日2名でローテーション)



就業している会員から一連の作業について説明を受け、天井2m程の蛍光灯の取替え作業があり、作業の検証を行いました。脚立は低いものを使用していました。油断はせず安全・慎重に作業を行うよう指導しました。

平成25年2月21日(木)

多摩区長尾のマンション(4階建)

男性会員1名で就業(週4日)

作業中は「清掃中」の黄色い目立つ看板を立て、歩行者に注意を促していました。水はけをよくするため、廊下の床には若干の傾斜があるので足元に気をつけていました。清掃用具等はよく整理・整頓されており、道具の劣化等があれば、すぐに交換することを心がけていました。電球の交換で脚立を使用することなので、安全・慎重に作業を行うよう指導しました。

麻生区高石のマンション(7階建)

女性会員2名で就業(週5日)

段差のある箇所が多く、常に足元に気をつけ、外側階段の清掃では、滑らないように天候や状況に応じて履物を使い分けるよう心がけていまし

た。手袋着用、動きやすい服装等、作業に合った服装をしていました。担当する階を手分けして作業をしているので、お互いに常に合図・連絡を取り合うことを助言しました。



会報第50号に寄せて

おかげさまで、会報「シルバーかわさき」が平成2年1月1日の創刊号を発刊して以来、約23年を経過して、本号で第50号となりました。

改めまして、会報編集に携わった会員及び職員の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

当初の会報は、事務局から会員の皆様へ情報の伝達等を主眼の紙面でしたが、センターの登録会員の増加や就業範囲の拡大などから、より身近に感じられるように、会員の皆様にも編集委員になっていただき、会員参加型の紙面作りをする共に、就業会員への取材を通して会員間の交流の活性化を図るなど、その充実に努めてまいりました。

今後とも、シルバー人材センターの現況等をわかり易くかつスピーディーに会報「シルバーかわさき」を通して発信して参りますので、よろしくお願ひします。

(文責) 事務局長 仲川 新一